

花園花貫県立自然公園

たつわれさん 豎破山ハイキングコース

MAP



花園花貫県立自然公園保護管理協議会

奈々久良の滝

花園花貫県立自然公園



花園花貫県立自然公園は、茨城県北東部の準平原化した山間部と、五浦及びその南部の海岸線を公園区域としています。

和尚山、栄蔵室山を中心とする山岳部は、花園渓谷、浄蓮寺渓谷をはじめとする渓谷美や、天然記念物アズマシャクナゲなど、四季を通じて楽しませてくれます。

また、福島県境に近い小川地区には本県で一番自然度の高いブナの原生林が広がっており、その南部には大北渓谷、花貫ダム、土岳などがあり、手頃なハイキングコースが整備されていることから行楽客でにぎわい、さらにその南端には巨石で名高い豎破山があります。

海岸部は、岡倉天心ゆかりの六角堂がある五浦海岸、白砂青松の美しさを見せる仁井田浜から高戸浜にかけての海岸、日立市のイブキの自生地と鶴の飛来地で知られる伊師浜海岸などがあり、多様な長い海岸線はこの公園の特色の一つです。



太刀割石

お問い合わせ先

自然公園 に関して

茨城県生活環境部環境政策課

(自然・鳥獣保護担当)

☎ 029-301-2946

〒310-8555 水戸市笠原町 978-6

ハイキングコース に関して

日立市

(観光物産課)

☎ 0294-22-3111

〒317-8601 日立市助川町 1-1-1

茨城県内の自然公園

国定公園

水郷筑波国定公園

県立自然公園

- ①花園花貫県立自然公園
- ②奥久慈県立自然公園
- ③高鈴県立自然公園
- ④太田県立自然公園
- ⑤御前山県立自然公園
- ⑥水戸県立自然公園
- ⑦笠間県立自然公園
- ⑧大洗県立自然公園
- ⑨吾国愛宕県立自然公園



自然公園とは

自然公園とは、自然公園法や県立自然公園条例により定められた公園で、優れた美しい自然の風景地を保護していくと共に、その中で自然に親しみ、野外レクリエーションを楽しむことを目的として指定されています。

規模や景観により「国立公園」「国定公園」「県立自然公園」の3つに区分され、茨城県内には国定公園が1つ、県立自然公園が9つ指定されています。また、土地の所有にかかわらず地域を指定する地域性の公園であるため、国、県有地だけでなく民有地も含まれています。

自然公園として指定されている優れた自然の風景地は、その環境に順応した様々な野生生物や、その土地の風土などがあいまって育まれてきたかけがえのないものです。このような自然の風景地を保護するための保護計画と、自然に親しみ楽しんでもらうための利用計画を定め、自然環境の保全や自然公園の管理をしています。



※ハイキングコースは、ハイカーのために整備されたものです。オートバイ・マウンテンバイクの乗り入れはできません。

茨城百景

Mt. Tatsuware

豎破山 森林浴の道



①不動石 (ふどういし)

(横8m×縦3m×高さ1.5m)

盤上に不動明王の石像が祀られ、その足元にきれいな清水が流れ落ちています。この石像は、明治になってから祀られたもので、石そのものはもともと黒前神社の祭神が浜降りの際、神輿の休み場所であったと言われていました。

③手形石 (てがたいし)

(横0.9m×縦1.4m×高さ1.5m)

石いっばいに右手の5本の指の跡が深くえぐられているように見えます。八幡太郎源義家が石を押しした時についた手形と言われていました。

②烏帽子石 (えぼしいし)

(横7m×厚さ1.5m、上部斜面の縦3m)

八幡太郎義家が豎破山の神霊に参拝した時、かぶっていた烏帽子に似ていたことから名がつけました。

④壘石 (たたみいし)

(横8m×厚さ2.5m)

壘を積み重ねたように大きな石が4段に裂けるように割れています。八幡太郎義家が腰を下ろして休んだので「腰かけ壘石」と呼ばれたことに由来しています。

⑤仁王門

門前には右大臣・左大臣の木像が配置されており、門の呼び名である仁王様は、後方にある壘半壘ほどの板張りの囲いの中に収蔵され僅かに格子窓を透かして見ることができます。普通の仁王様は総じて朱色ですが、この仁王様は眼のふちだけ僅かに赤みを残して、あとは御影石の地肌のままの姿でたっています。以前は、仏教像である仁王様が堂々と配置されていましたが、慶応4年(1868年)に発布された「神仏分離令」によって黒前神社として継承され、神社形態の隨身門として右大臣・左大臣に置き換えられました。本来は処分されるべき石像の仁王様を隠しながらも大切に守ってきた背景には、仏教霊場として佐竹時代に広く恩恵を受けた地元の強い信仰がうかがえます。現在に残す神仏混淆の珍しい門となりました。

⑥甲石 (かぶといし)

(高さ3.5m、外周12m)

元禄(1688年)以前は「豎破和光石」と呼ばれ、薬師如来が隠されている石として信仰され、正面に石をくりぬいた祠があり、その中に薬師如来の12神将像が祀られています。水戸光圀翁が仏教色の強い「豎破和光石」を「甲石」に改名したと言われていました。

⑦舟石 (ふないし)

(長さ4m、幅1.5m、厚さ右50cm・左90cm)

甲石の前にあり、主に半分埋まっているような舟型の石でその形が珍しいとされています。

⑧胎内石 (たいないし)

黒坂命が陸奥(蝦夷)遠征の帰路、山の麓で疲れていた体を休めていた時、一人の童子が馬を引いて通りがかり、あまりに疲労した黒坂命を見て、その馬の背に乗せ、急坂の山肌を一気に駆け上がり、この岩窟に休ませたことから「胎内」という名がついたと言われています。

⑨太刀割石 (たちわりいし)

(縦直径7m×横直径6m×高さ2.5m)

寛治元年(1087年)、八幡太郎源義家が、奥州征伐の折、戦勝祈願のために豎破山に立ち寄り、巨石の前で陣を引いて野宿していると、夢の中に「黒坂命」が現れ太刀を差し出しました。目覚めた義家が自分の前におかれた太刀を一振りすると、巨石が真っ二つに割れたと言われています。元禄3年(1690年)に隠居した水戸光圀翁が元禄6年(1693年)にこの山に登った折、「最も奇なり」と感銘し石の名をつけたと言われています。以前は「磐座(いわくら)」と言って、神の宿る石として信仰され、石の回りにしめ縄を張りめぐらし、みだりに石の上に乗ることはできませんでした。

⑩神楽石 (かぐらいし)

「豎破山絵図」(元禄4年)では「まいまい石」と言われ、豎破山の神霊が浜降りの際、折橋の氏子にこの場所で神輿を渡し、一休みのためにお神楽を奏し神楽舞をしたとされ、石の名になりました。

